

第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 川崎市立小杉小学校 武野 結基

1. 日時・場所 令和元年7月3日(水) 1年1組教室
2. 単元名 たからものをおしえよう
3. 単元のねらい
 - (1) 単元目標 自分の大切なものについて、姿勢や話し方に注意して、順序立てて友達に話すことができる。
 - (2) 指導事項 A 話すこと・聞くこと

現行学習指導要領	新学習指導要領
<p>ア <u>話題設定や取材に関する指導事項</u> 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。</p> <p>イ <u>◎話すことに関する指導事項</u> 相手に応じて話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</p> <p>ウ <u>話すことに関する指導事項</u> 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</p> <p>エ <u>聞くことに関する指導事項</u> 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもってきくこと。</p>	<p>ア <u>話題の設定、情報の収集、内容の検討</u> 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ <u>◎構成の検討、考えの形成</u> 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。</p> <p>ウ <u>表現、共有</u> 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>エ <u>構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有</u> 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p>

(3) 言語活動 事物の説明をし、それを聞いて質問したり、感想を述べたりする。

(4) 情報の扱い方に関する事項 (新学習指導要領)

○情報と情報との関係

ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

4. 評価規準 (現行)

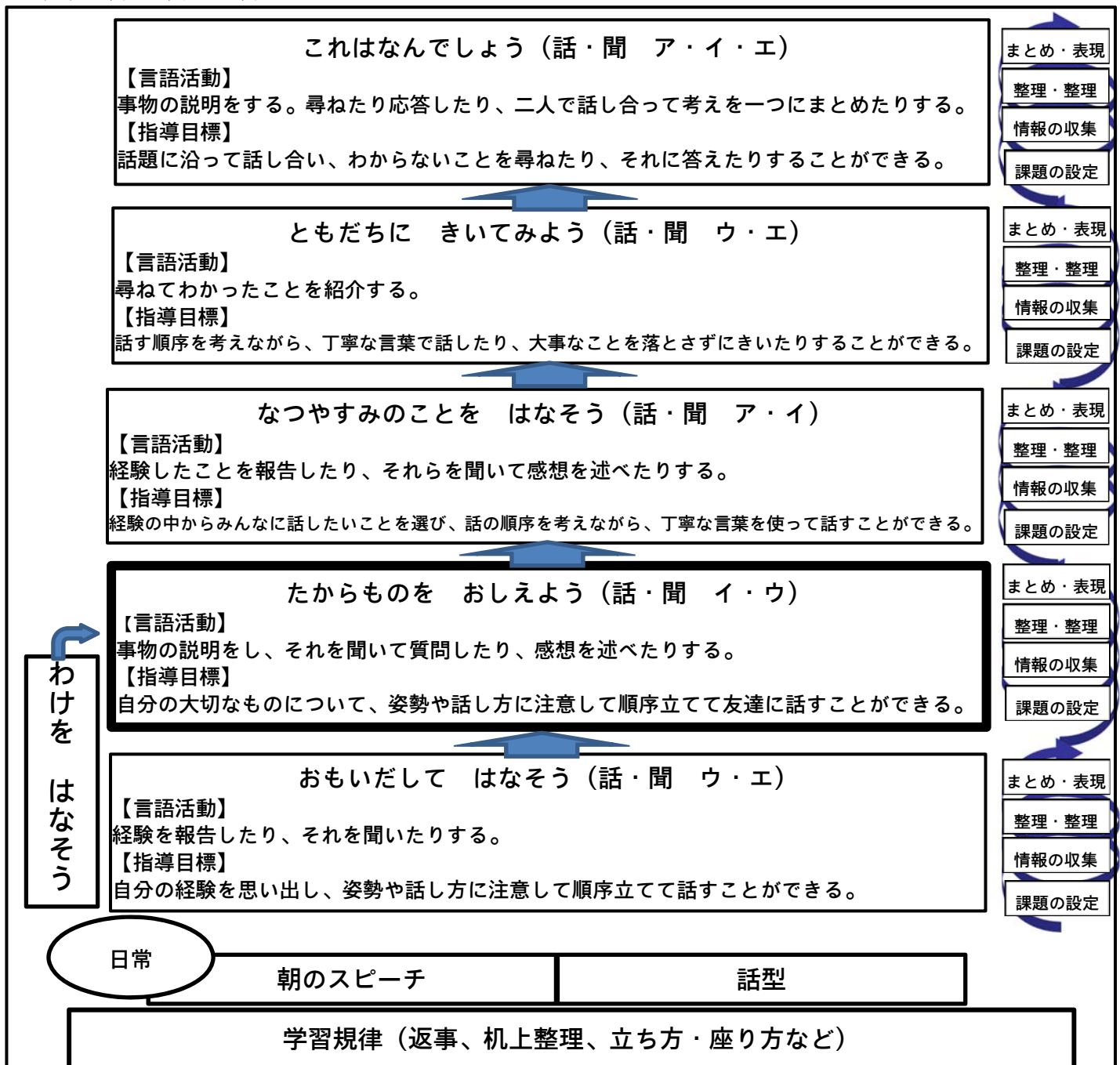
国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
<p>・説明の方法を知り、「たからもの」を友達に教えようとしている。</p>	<p>・説明のために必要な事柄を集め、順序立てて説明している。(1)ア・イ</p> <p>・二人組で相談するとき、グループで発表するとき、それぞれに適した声の大きさや言葉遣いで話している。(1)ウ</p> <p>・相手が伝えようとしていることを、興味をもって聞いている。(1)エ</p>	<p>・言葉には、事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気づいている。(1)イ(ア)</p>

評価規準（新指）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・言葉には、事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気づいている。</p> <p>情報の扱い方に関する事項</p> <p>○情報と情報との関係</p> <p>・自分の思いを伝えるためには、順番を考える必要があることに気づいている。ア</p>	<p>・説明のために必要な事柄を集め、選んでいる。</p> <p>・相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、説明している。</p>	<p>・進んで話したり、興味をもって聞いたりするなど、「たからもの」についてのやり取りを楽しもうとしている。</p>

5. 単元と児童

(1) 単元の関連と単元について



本単元では、「話すこと・聞くこと」の指導事項である「相手に応じて話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。」を重点的に指導する。新学習指導要領で示されているように「行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。」も意識して指導する。児童は、自分の宝物について、友達に分かりやすく教えようという目的意識をもって単元を通して活動する。そのため、目的意識をもたせることが重要になる。単元導入時に、教師の宝物の話モデルとして、効果的に提示していきたい。また、「話す事柄の順序を考える」という活動は、本単元で初めて行う。教科書では、この時期の活動として、伝えたいことを2文程度でまとめて、宝物とその理由について話すというめあてを示している。児童の実態を踏まえ、2文～3文程度の順番を考えられるよう、単元計画を立てた。

「わけをはなそう」では、対話を通じて理由を伝える話し方を学んでいる。また、「おもいだしてはなそう」では、自分の体験をグループの前で対話的に話す経験をした。それを受けて、本単元では対話的な取材活動を行い、グループの前で宝物とその理由について発表・交流する。そして、この後の9月教材「なつやすみのことをはなそう」では、体験を自力で思いだし、順序立てて話すことにつながる。

(2) 児童について

本学級は意欲的に学校生活を送っていたり学習に取り組んだりする児童が多い一方で、人前で話すことに苦手意識があったり、思ったことをすぐに口に出したり、友達の話聞くことが難しい児童も少なくない。また、教室から離脱してしまう児童もいる。そこで、4月からは1年生として学校生活に慣れる上の基礎的・基本的なルール作りを一つ一つ行ってきた。話し方では、話型を示したり、姿勢や声の大きさを確認したり、丁寧な言葉で話すことなどを指導してきた。また、モデルとなる児童を様々な場面で価値づけし、大切にしたい言葉を教室に掲示してきた。クラスみんなに話す時は、「発表します。」と言ってから話すことで聞く人たちの準備ができることも指導している。同時に聞き方の指導では、「発表します。」と言われたら「はい。」と返事をすることや、話し手に「心と体を向ける」ことを指導してきている。話し方・聞き方共に意識できてきている児童もいるが、まだまだ未定着な状態である。今後も丁寧に指導を継続していきたい。

自分の考えをよりわかりやすく伝えるために順序を考えることは、情報を整理・分析する上で大切な資質・能力の一つであると考え。自分の思いや考えを伝えるという場面は、教科を問わず日常生活に置いてもたくさんある。1年生のこの時期の指導をスタートとし、継続して指導していきたいと考えている。

6. 研究テーマに迫るために

研究テーマ

自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
～情報活用能力を育てる授業デザイン～

(1) 「学習過程プロジェクト」について

これまでの情報教育研究会では、情報活用能力の中でも特に情報活用の実践力に着目して研究を重ね、「5つの力」(あつめる力・なかまわけする力・くみたてる力・あらわす力・つたえる力)として整理してきた。また、学習指導要領解説総則編(2017)には、「情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力」と記述され

ている。

「5つの力」をベースに、より日常的な授業の中で情報活用能力を育成できないかと考えた。そこで着目したのが学習指導要領解説総合的な学習の時間編(2017)に「総合的な学習の時間における児童の学習の姿」として示された一連の学習過程である。「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」は、情報活用能力に関する記述と親和性が高い。つまり、このいわゆる「探求的な学習の過程」を他教科はもとより日常の授業の中で意識して育てることで、情報活用能力が育成されるのではないかと考えた。これが「学習過程プロジェクト」の概要である。

新学習指導要領では、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」の3つの資質・能力を育むことが明記された。これまでの「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域は、「思考力・判断力・表現力等」の枠組みの中で記されている。また、これらの各領域ごとに学習過程が一層明確にされている。これらのことから考えると、学習過程を繰り返して行く中で「思考力・判断力・表現力等の育成」がなされるということが読み取れる。

(2)本単元との関わりについて

新学習指導要領において、「話すこと」では、「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「表現」「共有」、「聞くこと」では、「話題の設定」「情報の収集」「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」と明記されている。これらの過程を意識しつつ、「探求的な学習の過程」も本単元の学習過程に位置付けた。なお、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という言葉は、1年生の児童にとっては理解が難しい。そこで、「課題の設定」を「めあてをきめる」、「情報の収集」を「あつめる」、「整理・分析」を「わける」「ならべる」「ならべかえる」、「まとめ・表現」を「つたえる」という言葉にして指導をする。

なお、本単元は「話すこと・聞くこと」の領域における学習過程の2サイクル目にあたる。1サイクル目となる「おもいだしてはなそう」では、「いつ」「どこで」「だれと」「何を」「どうした」「きもち」に気をつけて思い出し、グループの友達と発表し合う。ここでの重点は「姿勢や話し方に注意」することとする。それを踏まえて本単元の重点指導事項である「話す事柄の順序」を意識して指導して行く。

(3) 日常的な取り組みについて

話すこと・聞くことにつながる手立て

○日直スピーチでの話型

「わけをはなそう」では、「どうしてか」という話型を学習した。それを受けて、「好きな食べ物」「好きな遊び」「好きな絵本」など、テーマを決めて6月より日直スピーチに取り組んでいる。「わたしの(ぼくの)好きな〇〇は～～です。どうしてかと言うと、□□だからです。質問はありますか。」という話型でスピーチをする。毎朝数分ではあるが、日常的に話すこと・聞くことを意識できるように

○隣同士で相談する時間の確保

国語に限らず、各教科の様々な学習場面で、隣同士で相談したり、確認したりする時間を意図的に設けている。様々な学習場面とは、答えが合っているか間違っているかを確認する、答えが複数ある発問(例えば『小さな「っ」がつく言葉にはどのようなものがありますか。』など)について相談する、友達の発言はどんな意味だったのか話し合う、などである。

○しつもんめいじんのしつもん

「おもいだしてはなそう」では、「いつ」「どこで」「だれと」「なにを」「どうした」「きもち」といった観点を学習した。それらを「しつもんめいじんのしつもん」と名前をつけ、教室に掲示する。

学習の基盤となる手立て

○モデルとなる発言や態度の価値付け

友達の発言に反応したり、友達の発言につながるような発言があったりした時は、それらを短冊に書き、教室前方に掲示することで、いつでも確認することができるようにしている。

○学習規律の徹底

机上の整理方法、立ち方・座り方、返事の仕方、挙手の仕方、返事の仕方など、集団で学ぶ上での学習規律を4月以降繰り返し子ども達と確認している。1年生という発達段階や児童の実態を踏まえるとまだまだ難しい面もあるが、前向きに声かけしたり、モデルとなる児童を取り上げたりしながら、繰り返し確認をしている。

7. 指導計画

時	評価規準	主な学習活動	指導上の留意点
1		<p>課題の設定(めあてをきめる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の宝物の話を聞き、自分や友達の宝物について、話したい・聞きたいという思いをもつ。 ・学習の流れを確認する。 <p>学習の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の宝物を決める。 ② どんなことを話すか考え、伝えたいことを決める。 ③ ペアで質問し合う。 ④ グループに伝える準備をする。 ⑤ グループで宝物を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は「わたしの宝物は〇〇です。質問はありますか？」と2文で児童に問いかける。出てきた質問をもとに、「だれ、いつ、どこ、どのように」等の観点で質問を整理する。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物について話したいことを書いてある。【話・聞】 	<p>情報の収集(あつめる) 整理・分析(ならべる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の宝物について話したい内容を考える。 <ol style="list-style-type: none"> ①自分の宝物について話したい内容1つにつき1つの短冊に書く。 ②話す順番に短冊を並べる <ul style="list-style-type: none"> ・発表のしかたを確かめる。 ・グループでの発表をよくするために、まずペアで発表し合うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の宝物を学校にもってこられるよう、事前に配慮する。実物をもってくることが難しい児童は、写真をもってくるように知らせる。 ・話す内容は、「たからもの」と「理由」の2文にする。
④	<ul style="list-style-type: none"> ・話す事柄の順番を決めている。【話・聞】 	<p>整理・分析(ならべかえる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝物についてペアで交流する。 <p>交流の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 話し手が発表する。 ② 聞き手は質問をし、話し手はそれに答える。 ③ 話し手と聞き手を交代し、①と②を繰り返す。 <ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して、グループで話すときに付け加えたい内容を考える。 ・話す事柄の順番を考え、決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物や写真については大切に扱うよう指導する。 ・質問をし合うことを通して、発表の内容を詳しくしたり増やしたりできるようにする。 ・ペアでの交流が終わったら、クラス全体で交流を振り返り、グループでの発表の時に付け加えたい内容ができたか、それはどんな質問を受けて思ったのかを確認する。 ・順番を考える時は、より

5	<p>・聞き手にわかりやすい声の大きさや、言葉遣いを意識して、順序立てて話している。</p> <p>【話・聞】</p> <p>・話し手を見ながら、興味をもって聞いている。【話・聞】</p> <p>・言葉には、事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気づいている。【言】</p> <p>・宝物について、進んで友達と話したり聞いたりしようとしている。</p> <p>【関】</p>	<p>まとめ・表現(つたえる)</p> <p>・グループで順番に宝物の発表をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><u>交流の手順</u></p> <p>① 話し手が発表する。</p> <p>② 聞き手は質問をしたり、感想を言ったりする。</p> <p>③ 次の話し手が発表する。</p> <p>④ グループ全員の発表が終わったら、グループを変えて発表をする。</p> </div> <p>・学習の振り返りをする。</p>	<p>伝えたい内容を前にするように助言する。</p> <p>・1回だけの発表にせず、複数回行うことで、発表の仕方、聞き方を身につけさせるようにする。</p>
---	---	---	--

8. 本時について (4/5)

(1)目標

グループで発表し合う時に話す事柄の順序を考えることができる。

(2)展開

	学習活動と「教師の発問」	指導上の支援と留意点
全体	<p>1. 本時の課題と流れを知る。</p> <p>(1)前時までの学習を振り返る</p> <p>(2)本時の学習の課題を知る。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>しつもんしあって、たからもののいいところを見つけよう。</p> </div>	
ペア	<p>2. ペアで交流する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><u>はっぴょうのながれ</u></p> <p>① ひとりがはっぴょうする。</p> <p>② きくひとが しつもんをする。</p> <p>③ はっぴょうするひとは しつもんこたえる。</p> <p>④ はっぴょうするひとと きくひとを こうたいする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・宝物の実物、もしくは写真を手元において発表できるようにする。 ・話し手は、「わたしの(ぼくの)たからものは～～です。」と書かれた短冊(宝物カード)と、宝物の理由が書かれた短冊(理由カード)の2枚を手元におき、確認できるようにする。
個人	<p>3. 宝物について、付け足したい内容を考え、短冊に書く。</p> <p>「付け足したいと思うことを書き、理由カードを増やしましょう。」</p>	<p>整理・分析(ならべかえる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しつもんめいじんのしつもん」に答える時の単語だけでもよいことを助言して机間巡視する。
個人	<p>4. グループに発表する時の短冊の順番を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">学びを深めるための発問</p> <p style="text-align: center;">「発表する順番にカードを並べましょう。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に宝物を言い、次に理由を言うことを確認する。 ・一番伝えたい理由に◎をつけることで、宝物を伝えたいという思いを大切にできるようにする。 ・順番に迷っている児童には、より相手に伝えたい内容はどちらかという観点で並べられるように声かけする。
全体	<p>5. 本時を振り返り、次時の学習を知る。</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>【話・聞】 話す事柄の順序を考えることができる。(発言・聞く態度・理由カード)</p> </div>